

## 第2章

# 琉球風水の思想と技術

## QOLが上がる氣の設計

日本で唯一、本場中国の正統な風水が伝わった沖縄。本質的な考え方はそのままに、琉球の気候に合わせて独自の発展を遂げました。思想の軸がわかれば日本全国で活用できます。

その昔、琉球王国であった時代、王府の役人が中国福建省に留学して風水を学び、国家的な経済成長戦略として風水を取り入れてきました。風水とは、その地域の自然と調和するための「実学」であり「美学」です。中国と琉球では環境条件が全く違いました。本場中国で学んだ風水の「本質」を軸に、琉球の気候にカスタマイズされたものが琉球風水です。

沖縄は、冬に北側から吹く季節風と、夏場の台風による東風の影響が大きいので、四神相応の概念も、風害に対応できるようにアレンジされました。一般的な日本の風水のイメージと比べると、琉球風水は、現実に即し、「機能性」が高く実用的です。また、調和のとれた風水景観は美しく「デザイン性」も高いのが特徴です。

現代の沖縄では、台風に強いコンクリート住宅が主流となり、室温の調整も簡単にできるようになりました。風水の機能性や実用性のメリットだけに着目すれば、現代の技術の方が優れている点もたくさんあります。しかし、琉球風水が大切にしているのは、自然との調和。氣の流れの整った、抱き守られた状態は、私たち人間にとって感覚的な心地よさを生み出します。物質的な機能性とデザイン性が高く、心の内側まで癒やされる。こうしたバランスの良さが、琉球風水らしさでもあります。

# Ryukyu Feng Shui

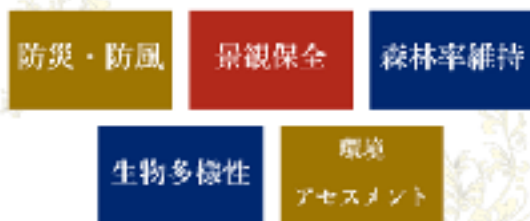


# History

## 1 琉球風水の歴史

### 持続可能な発展を支えた国策

#### 風水景観の維持がもたらす幸せ



#### Process

1 風水で現状分析を徹底

2 使い方を決める

3 良い気を旺盛にする

4 良い気を保全する

5 気の漏れを改善する

6 定期的にメンテナンス

琉球風水のキーワードは「抱護」（ほうご）です。山々や木々が包み込むように、その土地を抱いているような状態を「抱護」とよびました。抱護の状態が良い所を吉地としました。抱護の形は、気を留めるための風水の四神相応の地形に一致します。四神相応の概念は、首里城をはじめ、平地の集落や民家にも応用されました。

琉球王朝時代の政治的な国家戦略には、風水的自然観が根幹にありました。自然と人間の調和しながら共存を目指すのが風水思想です。風水を政治的な課題解決に実践的に応用してきた手法が琉球風水です。

#### 徹底した環境の現状分析が鍵

風水が国策に大々的に取り入れられたのは18世紀。当時の琉球は財政難にあり、国内の山野は荒れ果て、首里城の補修や人口増加に伴う建築用の木材を自国で自給自足する必要がありました。国家レベルの風水の実践者は、王府の役人でした。王府役人のトップであった蔡温は、山林政策や治水事業、農地整備や集落の形成を、風水思想を軸に実行しました。

蔡温の風水景観を作るプロセスは、初めに風水で環境の現状分析を徹底して行い、全体的な方針を決定します。そこから、抱護の吉地になるよう人為的に良い気を旺盛にして、良い気を保全するため環境破壊を禁止しました。抱護が欠け、気が洩れ出る所は植林によって補いました。定期的に山林のメンテナンスが行き届くよう文書にし、従わない者には厳しい罰則も設けています。

琉球風水は、防災、森林率の維持、生活環境の美化、生物多様性、環境アセスメントなどの役割を持っています。100年後の未来を見据えた持続可能な発展を目指す国家の経済成長戦略でした。



那覇市街

### Lily's Eyes 真に活きた庭園都市を作る考え方

『琉球風水とは「美学」である』この感覚を確認するため、リサーチをしている時に会ったのが、柳宗悦の残した言葉です。戦前の沖縄を訪れ「自然と人文とがかくも美しく組み合わせられた光景を、日本のどの土地に見出すことが出来るでしょう」と語り、首里の街の美しさを「真に活きた庭園の都市」と絶賛しています。

美学者が褒め称えるほどの昔の首里の街の姿とは、どれほど美しいものだったのでしょうか。風水思想による国家政策が、美しい緑豊かな景観を維持するために、どれほどその威力を発揮したのかが、伝わってきます。

さて、森林率が30%を切ると、人は不快と感じるようになり、生物生態系に大きな影響を及ぼすことが言われています。

そこで、気になって、那覇市の森林率を沖縄県の森林管理課に電話して聞いてみました。すると、那覇市の森林率は「0.5%」（2018年現在）とのことでした。思わず電話越しに「え〜っ」と叫んでしまいました。

この本を執筆している2020年現在、沖縄県で森林率30%以上ある場所は、多良間島（たらま

じま)のみ。多良間島は、その歴史景観が学術的な価値を有しているとして、日本林業遺産（※1）にも登録されています。

蔡温が行った風水的自然観にもとづいた政策は、琉球王国に住む人々のQuality of Life（生活の質）の高さを支えていたことでしょう。

SDGs（持続可能な開発目標）の意識調査（※2）によると、住み続けられるまちづくり「目標11」を意識している割合が徐々に増えています。300年前の蔡温の政策は、今の時代でも最先端と言えるでしょう。

土地の売買や人口増加により経済は発展したかもしれませんが、私たちのQuality of Lifeはどうなったのでしょうか。先人が残してくれた叢智に、今こそ学ぶ時がきています。

#### 宇宙の本質

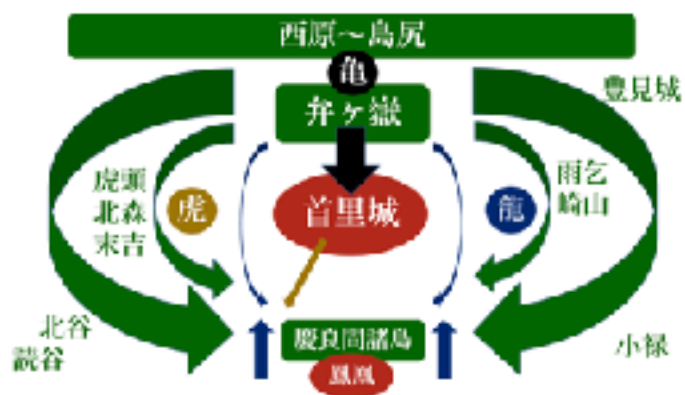
琉球風水は「実学」であり「美学」。高い機能的を持ちながら、美しくあれ。

# Shirī Castle

## 2 首里城の風水

### 美しい山水を四位に持つ最上の地

#### 首里城の四神相応



首里城へ行けば、今もなお壮大な首里城の風水景観を、360度で見ることができる。首里城が首里城であるための風水的な条件は満たされているのだろうか？

#### Essence

1 四神相応の抱護の地

2 気脈が旺盛

3 方位鑑定結果も吉

本場中国由来の王城の風水を体感できる日本で唯一の場所。それが、首里城です。風水におけるパワースポット（龍穴）とは、地理的な条件を満たすことで生まれます。

首里城は形勢派風水の「四神相応の地」。パワースポットの理想的な地形の一つです。玄武、青龍、白虎、朱雀の4つの聖獣に抱かれた地勢のこと言います。首里城は二重三重に四神に守られた「抱護」の王城です。

山や丘陵、川、海、島を四位に持ち、数十キロメートルに及ぶダイナミックなスケールで、首里城の風水景観は作られています。

#### 玄武、青龍、白虎、朱雀の抱護

首里城の背後から流れ込む気脈の発生源となる玄武は、弁ヶ嶽。この背後にある西原から島尻にかけての豊かな樹林も、首里城の背中を厚く守っていました。首里城の前方に位置する朱雀は、海を超えて遠く慶良間諸島が城を守っています。

左腕の青龍は、近くに雨乞御嶽や崎山御嶽、遠くには小緑・豊見城の丘陵があります。右腕の白虎は虎頭山（首里赤平町、虎瀬公園）から末吉・久米へ伸びるラインを近い位置とし、遠くは北谷・読谷の丘陵です。

玄武は北、青龍は東、朱雀は南、白虎は西を守る神とされている方も多いかもしれません。しかし、風水では本来、四神の位置は方角ではなく、地勢から見ます。首里城は、玄武の弁ヶ嶽が東にあるため、それを背にして西（朱雀）を向き、南が青龍、北が白虎となっています。

琉球王府の歴史編纂書「球陽」に、300年前の首里城の風水鑑定報告書が残っています。四神相応の地勢判断と方位鑑定の結果から、当時の首里城の風水が素晴らしいことが述べられています。



#### Lily's Eyes 王城に相応しい土地の条件とは？

私が最も感動したことの一つが、300年前の風水鑑定報告書が残っていることでした。首里城の復元で、王城の風水景観を解説書と共に体感できるのは夢のようで、この10年の間に100回以上通いました。資料がほとんど残っていない中、首里城は私にとって琉球風水の教科書そのものです。

蔡温が行った首里城の風水鑑定の内容が、琉球王国の歴史書「球陽」の第十巻「首里地理記」にあります。首里城は狭くて起伏のある傾いた土地の上にあり、良い立地とはいえません。しかし、周辺環境まで含めた風水的視点で見ると、首里城は四神に取り囲まれ、気脈が集まり、留まる場所で「最上の地」だと書かれています。

当時の山・川・緑など、気脈が旺盛になる美しい自然に抱き護られた環境が整っていることを条件に、首里城のある場所を、最も王城にふさわしい土地だと評しています。清らかな水と深い緑にあふれた当時の美しい自然環境が、首里城の風水を一層高めていたといえます。

また、方位鑑定についても「首里城正殿の向きと、正殿から奉神門へと伸びる浮道の向きは微妙な角度のズレがあり、氣の漏れを防いでいる。絶

対に向きを変えるな」と言っています。ただ、300年前と今では地軸の位置がずれており、現在の方位で鑑定をするとどうなるか、私にもわかりません。また、瑞泉門・歓会門などの門も、それぞれ向きが違い、氣が一気に流出しないようクネクネしています。これが、首里城が永く王城であるためのポイントであると書かれています。

歴史上、首里城の3回目の炎上が1709年にありました。この時、蔡温は中国に留学中でした。翌年の1710年に蔡温は琉球に戻り、首里城が再建された1714年頃に、この風水鑑定が行われています。風水設計の記録が残っていないため、首里城の風水はあまり重視されていませんが、現代の風水師が、首里城の風水鑑定報告書を読むと、蔡温の口調から、設計段階で入念な風水鑑定が行われていたことが伝わってきます。

#### 宇宙の本質

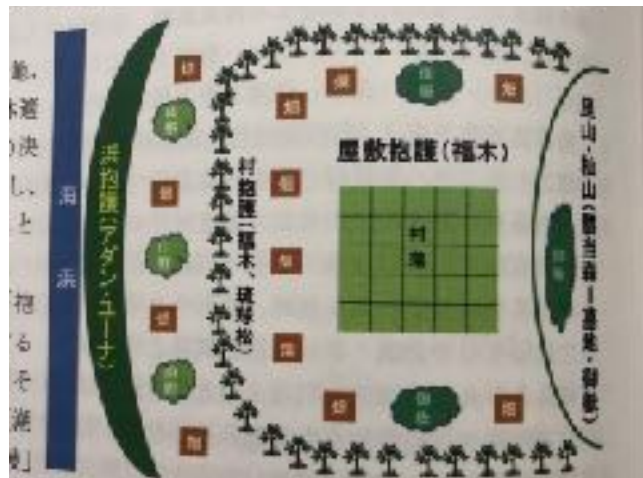
風水鑑定は、与えられた環境条件だけでなく、人為的な保全状況で結果が変わる

# Village

## 3 集落の風水

### 政治的な都市計画としての風水

#### 集落の抱護



自然の山や丘陵を利用し、人為的に木を植えることで、快適な暮らしを営むことができる空間が作られた。氣を旺盛するのも、衰退させるのも人の力。

#### Essence

1 御嶽に抱かれた安心感

2 緩やかな氣の流れる道

3 象徴的より実用的な風水

首里城の風水で大切にされている「抱護」、つまり、風水の四神相応の考え方は「集落の形成」という都市計画に、国家レベルで取り入れられてきました。

このシンプルな一つの考え方を入れ子構造で使われたことにより、集落の中にある各家が、風水の良い立地条件で家を建てることができました。

たった一つの考え方だけに、とても奥が深く、琉球風水師たちは、本質を捉えられた上で使う必要がありました。中国とは違う琉球の気候にカスタマイズして、沖縄の全土で、離島にいたるまで風水集落が作られていきました。

#### なんとも言えない心地よさ

琉球風水の基本的な集落のレイアウトは、背後に山や森があり、集落の根本には「御嶽（うたぎ）」と呼ばれる、その集落の元となった家のご先祖様が祀られた聖地があります。これが四神相応の「玄武」になります。前方には海があり、これが「朱雀」になります。

集落の左右は、山や丘陵などの高さのある土地や、抱護林とよばれる林や森があり、集落を抱くように囲うことで、氣が漏れ出ないように守られていました。

風水が悪いと判断されると、集落全体を移動することもありました。それほど、琉球王朝における風水の役割は非常に大きいものでした。

集落の中を歩いていると、風の強い日でも、心地良く穏やか氣が流れていることを感じることができます。集落の中の道路は、風が直進しないよう緩やかなカーブを描いています。

氣が漏れないよう抱護林に囲まれ、氣の流れが緩やかに流れるように設計された集落は、なんとも言えない心地よさがあります。



### Lily's Eyes 風水集落設計の王命を受けたら？

集落の理想的なレイアウトの方位は、背後の玄武が北、前方の朱雀が南、左腕の青龍が東で、右腕の白虎が西です。幸いにして理想的な方位で作られた集落もありますが、完全に逆向きで、背中が南、前方が北という集落も存在します。

国土が広いとは言えない琉球では、教科書通りの理想形ではなくても、四神相応の考え方を応用し、実行可能な最善策を探していく必要があったようです。

琉球風水の研究で読む学術論文は、ほとんどが北側の山を背に、南側前方に海がある集落の事例です。私が初めて出会った集落も背中が北西にあり、南東向きで前方に海がある集落でした。なので、琉球風水を学び始めた頃は、琉球の集落はそのようにできていると思っていました。

ある時、仕事で沖縄本島北部の集落の風水を見ることがありました。私は住宅の風水を見る時には、必ずその家がある集落の調査も行います。一見、背後に山があり、前方に海がある典型的な風水集落に見えました。

集落も住宅も入れ子構造ですから、一般的には背後に山があれば、集落の各家の背後も山です。

しかし、この集落では、集落の中の各家が、全て海側に背中を向け、山側を向いているのです。

方位磁石を取り出して見てみると、山が南側にあり、海が北側にありました。つまり、集落そのものは、山を背に海を向いていますが、南の光を取り入れられるよう各家は山側を向き、冬の厳しい北から吹いてくる海風を除けるように、海側へ住宅の背中を向けていたのです。

この集落を見た時、自分が風水師としてこの集落を設計する立場であったら、これができたであろうかと問いかけました。最初にこれを実行するときは、悩んだに違いないと思いました。

王朝時代の風水師が、高度な風水術を使いこなしていたという事実が残されています。その風水師の仕事に敬意を払い、今もその形が残っていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

#### 宇宙の本質

教科書で学んだ知識は必ず現場で確認せよ。先人の仕事の解釈は一番の学びになる。

# Ryukyu Style

## 4 琉球民家の風水

### 誰もが当たり前前に良い立地に住う

#### 典型的な琉球民家の間取り



北側を背に南を向く、広々した敷地に住宅を建てられることほど幸せなことはない。現代日本では難しいながらも自然と調和するエッセンスは取り入れたい。

#### Essence

1 周辺環境と調和する向き

2 機能的なゾーニング

3 人・自然・建築の調和

王朝時代は集落に風水が取り入れて作られており、個人の家造りにおいても、どの家もが風水的に良い立地で建てられるようになっていました。

集落を取り囲む地形によって多少の違いはありますが、家の背中が北側、家の前面が南側を向くことを基本としています。

王朝時代の民家の造りを理解することで、自然と調和する琉球風水の知恵を読み解くことができます。風水とは、自然と調和する造形空間をつくるための実学であり美学。現実の暮らしに役立てることができるよう、そのエッセンスを読み取っていきます。

#### 光、風と調和する幸せ

琉球民家は住宅の間取り配置が機能的にできています。空間を分ける方法として用いられたのが琉球風水です。正面から入ってくる邪気や強風から住宅を守るためにヒンプンを置き、その左右に流れる動線を利用して空間を二つに分けました。

パブリック空間は、南側に配置されました。南側は陽射しが強いので、琉球風水では「陽の方位」と定義します。陽の方位は、日光に恵まれ、明るく、にぎやかで活動的な方位であり、パブリック空間（陽）に適しています。

プライベート空間は、北側に配置されました。直射日光が届かないか届きにくいので、琉球風水では「陰の方位」と定義します。陰の方位は、日当たりが弱く、落ち着いて静かな方位であり、プライベート（陰）空間に適しています。

琉球民家は、太陽の光や、季節風の風向きなどが、どのように暮らしに影響を与えるかが配慮されており、自然との調和を大切にしてきました。また、実用的な面では、パブリック空間とプライベート空間とが、上手く分けられていました。



#### Lily's Eyes ライフスタイルに合わせて機能的に

琉球民家は、当時の人々の生活様式に合わせて機能的にできています。この時代は、稲や麦などを栽培し、労力として牛馬も使役していました。そのため、家畜小屋や納屋が必要でした。

トイレは豚のいるトイレで、門から見て左の奥、方角的には敷地の北西に配置されました。冬の北東の風、夏の南風、どちらの風が吹いても、トイレの臭いが母屋に流れてこないように配慮されています。

当時の生活を想像してみましょう。朝、家畜を連れて田畑に出かけ、夕方になって、家畜とともに収穫した野菜を持って帰ってきます。農具や手足は泥だらけです。そこで、考え出されたのが、作業で汚れる場所や家族が過ごすプライベートな場所と、きれいな状態でお客様を接待できるパブリックな場所とを分けることでした。

ヒンプンに向かって右側は、来客空間への動線で、男性とお客様が出入りしました。東から南東にかけての方位になるため、朝日が当たり、清々しい空間です。琉球王朝時代には、太陽の上がる東は神聖な方位とみなされていました。そのため、東の座敷には、床の間を置き、正客の座敷

としました。母屋の前面であるパブリック空間は表座と呼ばれ、東側（右側）から一番表座、二番表座、三番表座としました。一番座が客間、二番座は仏間、三番座は居間として使われました。

ヒンプンに向かって左側は、家族空間への動線で、女性や子供たちが出入りしました。このプライベート空間には、井戸、かまどやトイレなどがありました。母屋の奥のエリアは、裏座と呼ばれ、寝室や産室になっていました。東から順に、一番裏座、二番裏座、三番裏座と呼ばれました。

琉球民家は当時の生活に合わせて機能的にできてますが、時代は変わり、ライフスタイルや考え方も昔と今は違います。琉球民家と同じ造りにすれば、快適になるということではありません。

現実的に暮らしに役立て、その空間も居る人が「心地よい」と感じることに意味があります。

#### 宇宙の本質

理想的な風水とは時の流れが決めるもの  
ライフスタイルと考え方で正解は変わる

# Entrance

## 5 琉球民家の門

### 穏やかな良い氣を引き込む工夫

#### ヒンプンと動線



門の正面のヒンプンでプライベートが守られている。一番座へ向かう右側の動線は来客と男性が使う動線、台所へ向かう左側の動線は家族や女性が使う動線。

#### Essence

1 明るく氣を旺盛に

2 S字の氣の流れを描く

3 悪い氣を除ける

琉球民家には、現代住宅の玄関に相当するものはありません。外から屋敷内には、一番座や台所などから入りました。氣の出入り口という観点からみると、門口の風水を、現代住宅の玄関に当てはめて考えることができます。

門口は、外から敷地内に入ってくる氣の入口であり、また、住宅内に留まった氣の出口でした。

門口の向きや位置、幅は、風水判断の中でも、非常に重要でした。屋敷を建てる際は、まず初めに仏壇が母屋の中心（心臓部）に配置されるように設計され、仏壇の位置を基準として、門口の位置が決まりました。

#### 氣の出入りをコントロール

琉球民家は、家の正面が南側を向いています。太陽の光と、夏の心地よい南風など、自然の良い氣を引き込むよう考えられていました。入口付近には生氣をもつ緑や花が豊かにあり、植物の氣が旺盛です。屋敷の中に良い氣を引き込む大きな役割を果たしています。

仏壇と門口の間に置かれたヒンプンにより、氣の流れは左右にカーブして、ゆるやかなS字を描きます。屋敷に留まっている良い氣ができるだけ留まり、安易に外に漏れでないう、氣を守る役割があります。また、屋敷内に入ってくる悪い氣を避ける機能もあります。門口から入ってきた氣は、ヒンプンがなければ、直進して仏壇に直撃します。ヒンプンには、主にプライバシーを守るといった役割があります。

沖縄のシンボルの存在のシーサーも風水の考え方からきています。赤瓦の職人が家の完成のプレゼントとして、魔除けの意味をこめ、シーサーを屋根の上に置きました。門口を向き、門から殺氣が入ってこないよう睨みをきかせています。



沖縄

### Lily's Eyes 地球上どの住まいでもヒンプンを

琉球民家の門口から学んだ風水のエッセンスは、現代の住宅にも簡単に応用できます。琉球民家は明るく風通し良くするために、どの家も南側を向くように集落が設計されてきました。しかし、現代住宅はそうもいきませんよね。この考え方を現代の生かすのであれば、具体的には、暗い玄関では、天窓や照明で明るくしたり、壁紙や床の色に明るく温かみのある色を選ぶことで、琉球風水のエッセンスを取り入れることができます。

植物で氣を旺盛にするのは、玄関アプローチの植栽や、玄関に植物や花を飾ればOKです。鏡に植物を映り込ませると、良い氣が倍増します。

S字の氣の流れを描く「ヒンプン」の考え方は、現代住宅でもプライバシーを守るために、とても有効です。琉球独自のものと思われるかもしれませんが、日本だけでなく、地球上の住まいどこにでも応用できます。ヒンプンがにより外から家の中が全部見えないよう、外部からの視線がさえぎられていると、大きな安心感が生まれます。

しかし、外からの視線が一直線に家の中に入ってくる間取りはよくありません。その時、このヒンプンの考え方を使得対処法をお伝えすると、お

悩みが解消される住まいをたくさん見てきました。構造的に大きな問題があると、リフォームが必要になることもありますが、パターションやのれんを使って対処できることもあります。

悪い氣を跳ね返してくれる魔除のシーサーですが、置く時は「向き」が重要で入口に向けるのがポイントです。現代の沖縄では台風強いコンクリート住宅が主流となり、門の上に一對のシーサーが置かれるようになりましたが、元々は赤瓦屋根の上に置かれていました。屋根獅子を設置するのは棟梁の仕事で、獅子の顔の向きをどこに向けるかで、腕の良さが分かったといわれています。

琉球風水の目には見えない氣の流れを整えるエッセンスを、是非、活用して下さい。西洋的なデザインでも無理なく取り入れることができ、QOLの高い空間になります。

#### 宇宙の本質

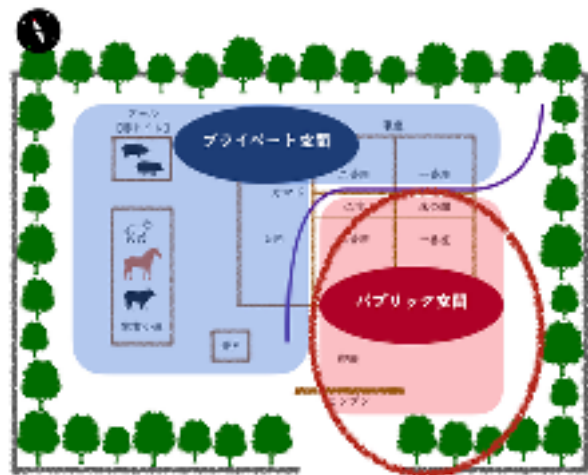
見た目のデザイン性を真似するのではなく、目には見えない本質を見抜け

# Public Space

## 6 琉球民家の表座

### 美しい自然のハーモニーの幸福感

#### 家の前面にあり明堂をもつ表座



表座は、屋敷の前面にあり、入口からの動線が近い。来客がプライベート空間を通過することなく客間に行ける。前方は広い庭を持ち、風水で財運を留める明堂を持っている。

#### Essence

1 美しい窓の外の自然風景

2 十分かつ穏やかな光

3 心地よい風

琉球民家の母屋の前面、南側にある空間の「表座（おもてぎ）」は、現代のリビング、ダイニングに近い役割がありました。

表座は南側一体が大きな開口部となっており、穏やかな光、夏の南風といった、心地良い自然の気が入ってくる、琉球民家の中でも最も心地よい空間です。客間、仏間、居間があり、来客を迎える空間であり、神仏を祀る空間でもありました。

家族や身内は年中裏で生活し、お客様やご先祖、神様には良い場所を提供する。贅沢を戒めて、慎ましやかな生活をするを美德とする当時の価値観も、家づくりに反映されています。

#### 格式の高い神聖な場所

向かって一番右、表座の東側にある一番座は、奥（北）側に床の間が設けられ、最も格式が高く、正式な客をもてなす空間でした。東方は太陽が昇る聖域で、神聖な方角と考えられてきました。東南の角部屋にあたり、採光、通風、眺望が最も良い部屋です。

表座の中心にある二番座は仏間で、親族や親しい友人が集う空間です。仏壇は、母屋の中心付近に位置しています。家の中心は太極とも呼ばれ、最も気エネルギーが集中しパワーの強い場所です。仏壇を住宅の中心付近に置くのが、道教や風水の考え方です。

現代住宅では、客間を特別に設けることは少なく、家族が過ごすLDが客間を兼ねていることが多いと思います。時代の変化に伴い、心地よい家造りの方法も、変化と進化を続けています。

美しい自然風景、十分かつ穏やかな光、心地よい風というエッセンスを、現代のライフスタイルで、住む人が心豊かになる環境を作るために、いかしていきましょう。



琉球民家の表座（北中城村・中村家住宅）

#### Lily's Eyes 古くて新しい琉球民家の心地よさ

築180年の琉球民家で暮らした思い出の中でも、最も強く印象に残っているのが、一番座の心地よさです。

一般的な琉球民家は、敷地面積が200坪あって、その中心付近に30坪の大きさの母屋があります。これだけでも贅沢ですね。200坪の敷地は抱護林のフクギで囲まれています。

屋敷にガラス窓はなく、表座を仕切る障子と、障子の外側に雨端（あまはじ）とよばれる屋根付きの縁側のようなものがあり、その外側に雨戸がありました。

日中は障子を開けて、フルオープンで生活です。東屋に住んでいるようでした。屋敷は緑に囲まれているので、開口部の外に見える風景は、全て自然の緑や花。握り拳よりも大きい天然記念物のムラサキオカヤドカリや、絶滅危惧種のキノボリトカゲが、のんびりと庭や家の中を歩き、時には、大きな翼を広げた白鷺が舞い降りました。

抱護林のフクギは、高さ15mにもなります。南に高く昇る夏の強い日差しがやわらげられ、心地よい木漏れ日が一番座へ入ってきました。

エアコンはなく、夏は扇風機で過ごしてしま

た。南風が木陰をすり抜けて涼風となり、表座の大きな開口部からたっぷり入ってきます。植物が水を蒸発すると周囲から熱エネルギーを奪い温度が下がります。この気化熱を活用して、300年前に家づくりがおこなわれていたのです。

さらにこの空気質にまでこだわると、マイナスイオンをたっぷり含んでいるので、心身の健康にも最高に良いということになります。琉球民家のQOLの高さは現代科学で証明できます。

新築される方に「風水をよくするためには何をすれば良いでしょうか」と聞かれたら、私は一番に「窓から見える風景を全て植物にしましょう」と答えます。これは、新築の時にしかできないケースが多いと思いますが、琉球風水で最上の暮らしとは、自然の心地よい氣を住まいに取り込む暮らしです。

#### 宇宙の本質

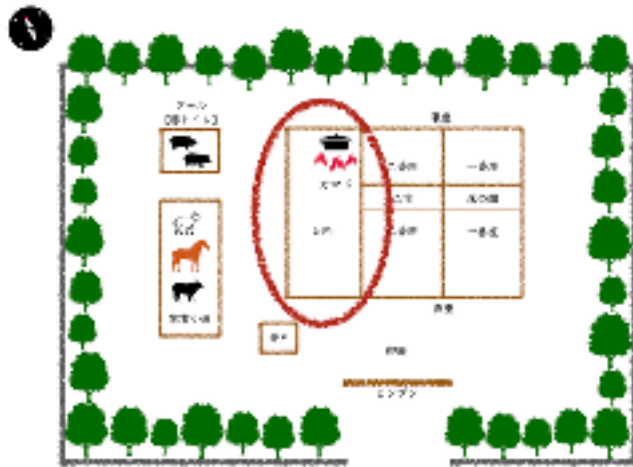
人を幸せにする最上のエネルギーを得たければ、自然界の中に見出しなさい

# Kitchen

## 7 琉球民家の台所

### 自然が主役の火のコントロール法

#### 台所とカマドの配置



向かって右側の西側に台所がある。近い動線に井戸、水がめ、家畜小屋や納屋があり、台所を中心に快適な家事動線となっている。

#### Essence

1 火の安全を確保

2 日当たり穏やかに

3 機能性の高い収納

琉球民家では、台所は敷地の西側にあり、プライベート空間にありました。

台所に流し台というものは無く、家の外に水瓶を置き、井戸に水組みました。昔はコンロと流し台は全く別に置かれていました。ここでは、「火」に関する屋敷の中にあつた台所のカマドをメインにお話します。「水」に関する流し台の役割については、次の水回りの項でお伝えします。

当然ながら、電気、ガス、水道のない時代です。風、光、水などの自然界のエネルギーと調和するように家を作ることが、命をつなぐ上で重要だったということを読み取ることができます。

#### 命を守り命をつなぐ場所

火の扱いは、命を守ることに直結します。全体的に開放的な造りの琉球民家も、台所だけは開口部が小さく、ほとんど壁に覆われています。

昔のカマドでは、火口に風が入りすぎると大火となります。また、火は住宅の酸素を燃焼させ二酸化炭素や一酸化炭素を含む煙をたくさん出すため、換気が悪ければ一酸化中毒などの事故にもつながる可能性があります。一方、空気が湿っていたり、風が入らなければ火付きが悪くなります。

開口部になっていたのは、カマド側の壁の窓や、動線的に必要な西側や南側の出入り口です。強い風に火があおられることなく、汚れた空気が適切に排出されるために空気の流れを作っています。また、日当たりがほとんどないのは、食材を保管する冷暗所の役割も果たしています。

台所では棚を作り、屋根裏部分などを物置として、薪や鍋、食器などを保管していました。煙が上るカマドの上には火棚を作り、薪などを乾燥させたり、上昇気流で舞い上がる火の粉が一気に茅草にまで達することを防ぐ働きもありました。



琉球民家の竈 (北中城村・中村家住宅)

### Lily's Eyes 沖縄の女性が台所で祀る火の神様

東京から沖縄へ移住し、一番難しいと感じたのは沖縄の「火の神」でした。上のイメージカットにも入れさせていただきましたが、カマドの中心に祀られている神様です。沖縄では主に「ヒヌカン」と呼ばれ、台所に火の神を祀り、家族の健康と繁栄を祈願する風習が受け継がれています。私のスクールでとった小規模なアンケート調査ですが、火の神を祀っている家は、現代の沖縄では50%くらいです。

東京出身の私にとっては、恥ずかしながら全くわからない世界でしたので、沖縄を代表する民俗学者の伊波普猷さんの「火の神考」を始めとする学術文献や、神職へのインタビューなど、火の神について調べました。そして、辿り着いたのは「調べれば調べるほどわからない」ということでした。この一言がスクールの講義中にぼろっと出てしまった時は、沖縄の女性たちから笑いが湧き上がるほど、みなさんも同じ感覚のようです。

よって、沖縄の火の神の真実を語ることはできませんが、考え方だけでもご紹介します。火の神は、海または川から卵型の自然石3個を拾ってきて、鼎立(ていりつ)して据え、前には香炉を置

きました。琉球の神は、東の彼方の聖地、ニライカナイからやってきて、海から沖縄本島に上がってきたという伝説があります。よって、海から漂って海岸にたどり着いた石をヨリシロとするといわれています。これが火の神の起源のようです。

火の神信仰は世界中の至る所にあり、その起源も様々です。いつの時代、どこの国でも、火は恐れられてきました。「火」は五行の一つですが、リアルな炎だけでなく、例えば「電気」も五行の「火」に属します。2019年の首里城火災の原因が電気であるように、もともと火を利用していたものが電気になったからといって、完全に安全になったわけではありません。本質的なものを見方をすれば、自然の恵みに感謝し、畏敬の念を抱いて日々過ごしていけるよう、シンボルを大切にしてきたということなのかもしれません。

#### 宇宙の本質

シンボルを大切に。シンボルを見た時の感情は、潜在意識にすり込まれ、生き方となる



# Bath Room

## 8 琉球民家の水回り

### 日常生活の動線が快適な暮らし

#### 北東高・南西低の敷地の水の流れ



北と東が高く、南と西が低くなっているのが理想的な敷地の高さ。水は緩やかに流れる穏やかな高低差で、排水経路が考えられていた。

#### Essence

1 快適な家事動線

2 水はけ良く

3 プライバシーの確保

王朝時代は、当然ですが、電気・水道・ガスの無い時代です。台所には流し台というものは無く、水は井戸で汲みました。お風呂も無く、井戸端で行水をしました。

井戸は、基本的に母屋から見て、右斜め前方にありました。敷地の西側は、井戸の他、台所、家畜小屋、納屋などがあり、主にその家の住人が日常生活を営む上で、必要な作業を行うプライベート空間でした。

この水に関わるエリアは、来客の動線に当たらず、外からの視線にもさらされません。また、水はけが良く、湿気対策に配慮されています。

#### 水の気はプライベート感重視

水道のない時代、水場は屋外にあり、井戸や水がめを利用していました。井戸は家の前面の西側にあり、井戸に近い台所の出入り口に、水がめがおかれていました。この井戸や水がめが、現在のキッチンの流し台や洗面所、浴室として使われていたと考えられます。

井戸の周りには琉球石灰岩などが敷かれ、洗った野菜や魚を調理しました。首里など井戸の無い家では、水がめを置き、湧水を汲んできて溜めて使っていました。

井戸が置かれているのは、外から入ってくる際、ヒンプンから左側の動線にあるプライベート空間です。来客動線には当たらず、また、客間の一番座の座敷からは見えない位置にあり、プライベートが守られていました。

琉球民家の敷地を立体的にみると、家の背後である北側と一番座のある東側の敷地が高く、家の前面である南側や西側の敷地が低くなっていました。水はけが良く、雨水や生活排水が母屋の下を通らないように配慮されています。



#### Lily's Eyes 「水回りは北西」という不思議

琉球風水師の仕事をしてから驚いたことの一つに、沖縄の方が「風水では水回りは北西の置く」ということを常識のように思われていることでした。東京で風水を学んできた私にとっては、聞いたこともない話でした。北西というのは八方位で見れば「主人の方位」であって、どちらかというが高貴な方位です。一体、なぜ水回りなのか疑問でした。

沖縄では何冊か風水の本が出版されており、その中の一冊の本に「水回りは北西」という基準が設定されていました。よく読んでみると、理由がわかりました。王朝時代の琉球民家は典型的な理想とも言える間取りがあります。その中で水回り、というかトイレが向かって左奥の北西にあるので、そこから「水回りは北西」とお決めになっているようでした。

確かに、王朝時代に風水で都市計画が行われていた時代は、どの家も北を背に南を向くことができ、北西に水回りを置くのは理想的です。この本でも、その間取りを琉球民家の風水と構造のモデルケースをお伝えしています。しかし、最も大切なこととは何でしょうか。「方位」でしょうか？

昔の間取りの「方位」による風水診断は、前面道路が南という立地条件でしたら今も通用します。しかし、よく考えてください。例えば、前面道路が北西の立地条件の家で、水回りを北西に配置して、幸せになれるでしょうか？

「風水は著者によって言っていることが違うので、何が本当なのかかわからない」と思われている方も多いと思います。しかし、普通に自分の頭で考えればわかるレベルのこともたくさんあります。「水回りが〇〇の方位でないから風水が悪い」「この方位だと家族が病気になる」など言われても悩み苦しむことのないよう、情報を受け取る時は、方法論に振り回されず、必ずその背景にある「本質」を見抜くことを心がけてください。これが、風水を現代に活用する一番の近道です。

#### 宇宙の本質

答えの丸暗記で勝てるのは試験だけ。現実社会では応用力を鍛えよ

# Toilet

## 9 琉球民家のトイレ

### 風を制するものがにおいを制す

#### トイレ配置と風と水の流れ



敷地の左の奥に豚小屋であり、豚トイレがある。風の流れと水の流れが配慮され、トイレが発する悪い気が母屋に流れ込まない配置になっている。

#### Essence

1 空気の流れでにおい対策

2 清潔感

3 感謝の気持ち

琉球民家の敷地内では、トイレはプライベート空間に配置され、敷地の左手奥にありました。方角的にみれば、母屋の背中が北側（北東・北・北西）であることが一般的ですので、トイレは北側や西側のエリアに配置されていることが多かったはずで

す。水道も電気もない時代なので、もちろん水洗ではありません。自然と調和することで、快適に使用ができるように工夫されてきました。

季節風を配慮したトイレの臭い対策、敷地の高低差を利用した適切な排水への配慮、また、食を生む場という性質も持っていました。

#### 食を生み健康を守る場所

琉球民家のトイレの配置は、風水の視点から、とても大きな意義があります。夏の心地よい風は、主に南、南西から吹いてきます。

一方、冬には、北や北東から厳しい季節風が吹き込みます。この位置にトイレがあると、夏の風、冬の風、どちらから風がきても、トイレの臭いが母屋に流れてきません。沖縄独特の風の性質と向き合うことで、トイレの臭い問題は緩和されていました。

琉球風水では、敷地の高さが、北側と東側が高く、南側と西側が低いことが理想とされていました。敷地内の水は、北東から南西に流れるため、母屋の下には水が通りません。

また、傾斜がゆるやかにあることで、不要な水が適切に排出されました。大雨が降っても、汚物を含んだ水が母屋に流れ込んでこない位置にトイレが配置されているのがわかります。

当時は主に豚トイレです。豚トイレは排泄の場でありながら食を生む場でもありました。家族の健康を守るため、清潔である必要がありました。



城邑民俗村の豚トイレ（韓国・濟州島）

#### Lily's Eyes 各家庭が1単位の循環型社会形成

風水が盛んだった中国福建省では、豚トイレが使われていたようです。豚小屋と一緒にトイレを作り、人間が糞をすると豚がそれを食べるという仕組みです。豚はやがて人間の食料となりました。また、豚の糞は堆肥として作物に与えます。完璧な循環型の生活が出来上がっていました。

琉球にも今から約600年前に豚が福建省からもたらされ、豚トイレも一緒に使われていました。沖縄では豚便所のことを「ワーフル」とか「フル」と呼び、戦前まで使われていました。

豚は大切な食糧源でした。排泄の場でありながら、食を生む場でもあったため、今のトイレ以上に重要でした。特に、伝染病などの病気が発生すれば、家族が体調を崩し、その上、豚が死ぬことになれば、食糧源が絶たれます。そのため、清潔にすることが必然的に要求されました。

私は、中村家住宅や琉球村で豚トイレを見ていたのですが、名護博物館（名護市）に行った時には、びっくりしました。豚トイレの展示があったのですが、そこに黒いアグー豚の親子と一緒に展示されていたのです。豚のいない豚トイレを見ても、特に何も感じなかったのですが、豚の展示を

見たことで、日常的なアグー豚の親子の暮らしがそこにあったのだということを感じました。

人間から見たらトイレですが、豚にとっては住まいなのです。そのイメージが少しでも伝わればと思い、イメージカットは琉球の豚トイレではなく、リアルなアグー豚がお住まいの城邑民俗村の豚トイレ（韓国・濟州島）を選びました。

当たり前なのですが、沖縄のブランド豚、アグー豚は琉球王朝時代、豚トイレにいらっしやっただけです。豚というだけで「ピンクの豚」しか想像できなかったのも驚いてしまった理由です。

現代に生まれた私たちにとって、豚トイレは衝撃的かもしれません。しかし、その意味を知れば知るほど、当時の持続可能な暮らしのあり方に尊敬の念を抱きます。食を生み、健康を守るトイレという空間。感謝の気持ちを込めてお掃除を。

#### 宇宙の本質

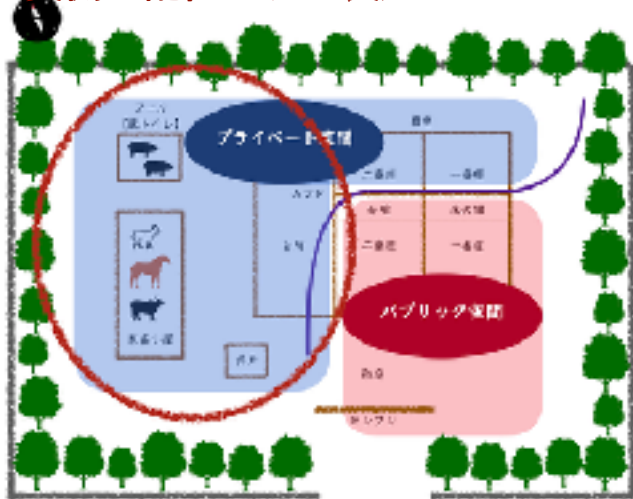
命を守り、命をつないでいる当たり前の日常に、感謝できる人間であれ

# Private Space

## 10 琉球民家の裏座

### 奥まった配置のプライベート空間

#### 奥側に配置される裏座



北側の奥まった配置で、穏やかな気が流れる。現代住宅では方位を合わせるの難しいが、家の奥側にプライベート空間を持つてくると落ち着きが得られる。

#### Essence

1 奥側のプライベート感

2 光穏やか

3 静かな落ち着き感

琉球民家の裏座は、屋敷の奥側に配置されており、来客の動線や視線にさらされません。方角的には、北側（北西・北・北東）の陰の方位にあり、直射日光が届かないか、届きにくい空間です。

このため、穏やかで落ち着いた静かな気が流れており、プライベートな時間を過ごす場として適しているという特徴があります。現代住宅の寝室、書斎、子供部屋などのプライベート空間に、裏座のエッセンスを応用できます。

琉球民家では、どの部屋が、誰の寝室になったのかは、家族構成や地方により様々ですが、裏座が主に寝室として使われていたようです。

#### 静かで、涼しく、穏やかな気

裏座に十分な広さがある場合は、寝室として使われたようです。客間の一番表座は来客用、仏間の二番表座は、お年寄りや親しい間柄の来客用の寝室などとして使われていたようです。

裏座に十分な広さが無い場合は、収納として使用されました。北にあり高温を避けられるため、食品を入れた甕などの置き場にもなっていたようです。二番裏座、三番裏座がある場合、三番裏座に囲炉裏があり、産室にもなりました。短い間ですが、冬場に暖を取る場所でもありました。

築300年になる琉球民家の代表格、中村家住宅を訪れると、表座と裏座の「気」の違いをはっきりと体感できます。第12代御当主のお話では「夜に裏座で眠っていると天井から涼しい風が降りてきた」とありました。関西大学の研究チームの調査結果によると、表座の天井よりも裏座の天井の方が低く、その高低差で裏座の床の間の上に隙間が生まれ、小屋裏から涼しい風が入ってくるようになっているとのこと。空気の流れを上手にあやつることで、天然のクーラー機能もついています。



### Lily's Eyes 風水では北枕、西枕はどんなの？

昔の沖縄では、太陽が昇る神聖な方位の東（アガリ）に、枕を向けて寝る習慣がありました。また、家から死者が出た場合、二番表座の仏間に寝かせ、物事の終わりを表す西（イリ）の方位に頭を向けたといひます。そのため、「西枕は良くない」という風習が今でも沖縄に残っています。

王朝時代は、どの家も向きや間取りはほとんど同じように建てることのできるよう、風水で都市計画が行われていました。そのような環境であれば、方角を中心に判断することは簡単です。

一般的に、日本では北枕を嫌う傾向があります。これはお釈迦様が亡くなられた時に枕を北に向けたことにより、「死者の枕の向き」と思われたためです。実際には、古代中国において、地球の南北の磁力線に体を合わせることで、死者が蘇った伝説があり、お釈迦様の蘇りを願って北枕にしたということのようです。風水では、陰の方位の北は、光も穏やかで落ち着いているので、北枕は良いと考えます。

沖縄の「西枕は良くない」というのは、太陽信仰からきているもので、風水ではありません。また、一般的な「北枕は良くない」というのは迷信

であり、こちら風水ではありません。

しかし、風水では「枕の向きはどうしたらいいでしょう？」というのが最も多い質問の一つです。現代住宅において、風水ではどのようにして良い枕の向きを決めればよいのでしょうか。

琉球風水では、住宅内の気の流れを見て判断します。それは、その家に与えられた環境である寝室の配置や、部屋の形、窓や扉のIを優先して、安心して眠ることができるベッドのレイアウトを考えます。次に枕の向けることが可能な方位から、より良い方位を選択します。

枕の方位だけを風水として取り入れてしまい、寝心地が悪くなってしまっていることが多々あります。ただ、ご両親などご家族が北枕や西枕をどうしても避けたいという場合は、風水以前にご家族とのコミュニケーションも大切にしてください。

#### 宇宙の本質

幸せになる枕の向きは、方位ではなく、睡眠の質の高さと、家族の笑顔で決めよ

# Private Space

## 11 琉球風水の体感スポット

### 宿泊施設

.....



.....



.....



.....



.....



### レストラン・カフェ



.....



.....



.....



.....



.....



.....



.....



.....



.....